

櫻井

特67

451

074993-000-4

特67-451

櫻井

清水 昌作/著

M21

CEL-0917



正初たのの集ちかりてはるたのくは方かたの中なかへたの 豊とよて中なか

次子流ながれはるたのくは方かたの中なかへたの 河内河内の國くにをゆくたの

是こゝの楠くすのぎ殿どのの臣おみは恩おん地ちを近ちかく瀧たきへたの 借かり

頼たのむ中なかの楠くすのぎ殿どのは朝あさ歌うた遠とほ討うちの宣のたま旨みこしをたの

預あづかり揚あ敷し兵庫ひんぐうの湊みなと川がはへ下くだ向むかへたの 臣おみ

多おほ門かど丸まる殿どのは様やう井いの宿しゆくをたの 臣おみ面おもをたの

臣おみ事ことをたの 登のぼりてはるたの 臣おみ供たよりは様やう井いの宿しゆくへたの

..... 上

武士ぶしの取とり借かりはるたの 梓すき弓ゆみへたの 矢やあひむのたの 一ひと筋すぢは

思おもひ入いるたの 乃すなはち月つき影かげもたの 形かたちもたの 形かたちもたの 乃すなはち

名なをたの 乃すなはち津つのたの 名なや浪なみ花はな乃すなはち春はるはたの

松まつもたの 母ははもたの 芳よし乃すなはち様やう井い乃すなはち宿しゆくをたの

..... 急いそぎ中なか様やう井い乃すなはち宿しゆくをたの

臣おみ事ことをたの 乃すなはち中なかの臣おみはたの 乃すなはち中なかの臣おみはたの

登のぼり入いるたの 乃すなはち中なかの臣おみはたの 乃すなはち中なかの臣おみはたの

...

乃すなはち中なかの臣おみはたの 乃すなはち中なかの臣おみはたの

殿の御供也。嗚呼今滿つる御供は世に披き流す

へ た刀拵 其由りよりなるやと云ふ。若くは侍

ひへ 上 北風塵埃を卷ひて南枝を

開ふ堪へず。護者朝も憂へて賢良野小

滞む。 上 冥もや昔為替愛の習ひと云ふ。昨日よ

るる世の中乃人の心も秋津洲乃雲為の空

乃定免なき。後乃雨の始るや。後一置する

幼子よ。我真心を傳へ給へ 上 身は十毒の界隈よ

あ 上 後 上 親子乃中。

後 上 何

り 上 何

多明丸 上

豊 上

さ 上

備の事なきは正行の事なり

親の御事なきは命を尊ぶ事なり

親の御事なきは命を尊ぶ事なり

親の御事なきは命を尊ぶ事なり

親の御事なきは命を尊ぶ事なり

親の御事なきは命を尊ぶ事なり

親の御事なきは命を尊ぶ事なり

親の御事なきは命を尊ぶ事なり

親の御事なきは命を尊ぶ事なり

親の御事なきは命を尊ぶ事なり

親の御事なきは命を尊ぶ事なり

作者ととも。り。紫。の。花。の。子。よ。と。い。ふ。世。の。し。の。あ。ら。は。き
を。外。所。に。見。て。何。と。言。ふ。郷。土。の。故。郷。の。人。を。思。ひ。出。す
願。ひ。と。い。ふ。人。の。程。の。道。を。舞。う。と。い。ふ。詞。を
そ。む。く。社。道。を。く。も。安。ら。う。ぬ。と。い。ふ。為。す。と。い。ふ。心
と。い。ふ。心。の。内。に。海。の。心。と。い。ふ。心。の。あ。ら。は。き
心。と。い。ふ。心。の。あ。ら。は。き。心。の。あ。ら。は。き
心。と。い。ふ。心。の。あ。ら。は。き。心。の。あ。ら。は。き
心。と。い。ふ。心。の。あ。ら。は。き。心。の。あ。ら。は。き

と。い。ふ。心。の。あ。ら。は。き。心。の。あ。ら。は。き
心。と。い。ふ。心。の。あ。ら。は。き。心。の。あ。ら。は。き
心。と。い。ふ。心。の。あ。ら。は。き。心。の。あ。ら。は。き
心。と。い。ふ。心。の。あ。ら。は。き。心。の。あ。ら。は。き
心。と。い。ふ。心。の。あ。ら。は。き。心。の。あ。ら。は。き
心。と。い。ふ。心。の。あ。ら。は。き。心。の。あ。ら。は。き
心。と。い。ふ。心。の。あ。ら。は。き。心。の。あ。ら。は。き
心。と。い。ふ。心。の。あ。ら。は。き。心。の。あ。ら。は。き
心。と。い。ふ。心。の。あ。ら。は。き。心。の。あ。ら。は。き
心。と。い。ふ。心。の。あ。ら。は。き。心。の。あ。ら。は。き

いふ義あり。法をばあはむと云ふも
おむせむる也 傳入唐書に云く
おむせむる也

おむせむる也 落上清中一孔明の圖也
おむせむる也

おむせむる也 洗むともある後乃 世小鏡一悉く初子の
おむせむる也

おむせむる也 乃其時正成肌の也
洗むともある後乃 世小鏡一悉く初子の
おむせむる也

おむせむる也 都責の者一時下ある
洗むともある後乃 世小鏡一悉く初子の
おむせむる也

繪首なる也。中なる也。中なる也。中なる也。中なる也。
儂る也。これ免る者もあらむ。言氏代と成る。
昔野の上乃遠深く。蔵慮猶中一猪の也。
鏡ふりけて見るに。左なきもあらず正行よ。
ある一の猪も道をもとら張月の影くく家
あむし鎌も事なる也 父の子なる法石も
あむし鎌も事なる也

あむし鎌も事なる也 徳義の道に遊べし。村邊にあり一郎事なる也

憐之杖持し 櫻井家の吉野の川乃あり 清き
流き絶へせぬ 雲の旗を二度魔うせし
歌を千里より 響きて 敷き敷きと安んずる
弓取の姿の姿を 惜むる かなし かなし かなし
此景ふあはれなる 君の信運も言ふ
天津日嗣乃 勇まあく めでたき 代は 夢よ かなし
今の憂身と 愁し かなし かなし かなし 弱業とせぬ

歌心 夢を張る かなし かなし かなし 箭前事ぬ
乱き心を 取直し 探る 雲ふ 夢心 汲く かなし
人あはれなる かなし かなし かなし かなし かなし かなし
あはれ かなし かなし かなし かなし かなし かなし 君の心
君の心 長らぬ かなし かなし かなし かなし かなし かなし 浮む
後を あはれ かなし かなし かなし かなし かなし かなし かなし
名残とて 思ひし 沈む かなし かなし かなし かなし かなし かなし かなし

満下... 見様... 栄子... 馬矢の... 家

... 櫻井と... 巻...

明治十八年

森多汎

下田守識

高知縣士族

明治廿一年四月五日印刷
全年六月一日出版
全年六月十五日發行

高知縣土佐郡新市町九十三番邸住
平民 宮崎喜吉

印刷者

全縣全郡北門筋六番邸住
士族 清水昌作

著作者

全縣全郡大川筋五十七番邸住
士族 下田守

版權登錄

定價拾貳錢